

競 技 注 意 事 項

1 本競技会は、2025年世界陸上競技連盟競技規則及び国内広告および展示物規程、並びに本大会申し合わせ事項により実施する。5000mW・リレー種目及びジュニアの部については、国内競技規則、国内広告および展示物規程により実施する。

2 競技者の招集について

- (1) 招集所はドーム第2ゲート内に設ける。
(2) 招集時間は、開始・完了ともに、競技順序に記載された時刻で行う。

① 各種目の招集開始時刻及び招集完了時刻は、その競技の開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	40分前	20分前	棒高跳	110分前	90分前
フィールド競技	70分前	50分前			

② 混成競技の招集時間(2種目以降)及び招集完了時刻は、下記のとおりとする。

混成種目	招集開始時刻	招集完了時刻	混成種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	20分前	棒高跳	70分前	60分前
フィールド競技	50分前	40分前			

(3) 招集手順

- ① 競技者は競技順序に示した招集開始時刻に招集所に集合し、その際、審判員の指示によりアスリートビブス・競技用靴・衣類・持ち物等の点検を受け(日本陸連競技会における広告及び展示物に関する規定に準ずる)、レーンナンバーカードを受け取ること。規定に合わない衣類・持ち物を持ち込む場合は、招集所入り口に置いてあるテープで、各自マスキングすること。点検の後はそのまま待機し、招集完了時刻(移動開始時刻)に競技者係の誘導に従い移動する。
- ② 電子・通信機器(スマートフォン・タブレット・イヤホン等・ビデオカメラ・トランシーバー・通信機能を持つ腕時計もしくは類いの機器等)は競技場内に持ち込むことができない。招集所や競技場所でこれらの持ち込みが明らかになった場合は、主催者で預かり、競技終了後に返却する。(TR6.3)
- ③ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
- ④ 代理人による招集の最終確認は原則として認めない。ただし2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻前までに2種目同時出場届(TICに準備)を招集所に提出すること。なお、当該競技者でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド競技の競技場所に移動し、当該競技役員に申し出ること。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前、当該競技役員にその旨を申し出ること。(TR4.3)(TR25.19)
- ⑤ リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、各ラウンドとも1組目招集完了1時間前までにオーダー用紙(TICで配布)を招集所競技者係に提出すること。一度提出したオーダーについては変更できない。ただし、主催者が認めた医務員により、けが等により出場が困難と認められた場合は変更を認める場合がある。招集完了後の変更はいかなる場合でも認められない。
- ⑥ リレーについては、あらかじめエントリーしている選手から少なくとも2名が出走しなくてはならない。リレーのエントリー以外からリレー出場の場合は、オーダー用紙の「※欄の出場種目」と記載ページを記入すること。ただし、ジュニア種目からのエントリーはできない。
- ⑦ 出場種目を欠場する場合は、招集開始時刻前までに欠場届(TICに準備)を招集所に提出すること。
- ⑧ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものととして処理する。
- ⑨ 混成競技の実施日最初の種目については、招集所にて競技順序に示した招集時間で招集を行う。招集完了時刻に遅れた場合は、棄権とみなす。次種目以降については、混成競技係の指示に従い競技順序に示された招集完了時刻に混成競技選手控え場所に集合すること。競技開始時刻に遅れた場合は、棄権とみなす。

3 アスリートビブスについて

- (1) 出場者は主催者より配布されたアスリートビブスをそのままの大きさを胸部と背部につけること。
ただし、3000m以上の長距離競技は、TICにて別に配布するアスリートビブスを胸部と背部につけること。
その際、正規のアスリートビブスを持参すること。また、混成競技の最終種目では、混成審判から配布されるアスリートビブスを胸部につけること。
- (2) トラック競技者は、招集所で競技者係から渡された腰ナンバーカードを右腰につけること。
- (3) 跳躍競技の出場者は、その種目に限り胸部または背部のいずれかを除いてもよい。

4 競技について

- (1) 競技に参加する選手以外は、競技場内に立ち入らないこと。
- (2) トラック競技・フィールド競技・混成競技におけるレーン及び試技順についてはプログラム記載通りとする。
- (3) トラック競技の判定は、すべて写真判定装置（全自動電気計時 1/1000）を使用し、砲丸投以外の投てき競技は、科学計測装置を使用する。
- (4) スタートの合図は、イングリッシュコマンドで行い、不正スタートは1回目から失格とする。
- (5) スタート時に他選手への妨害や遅延行為による不適切行為があった場合は、審判長による警告を与え、警告2回で当該種目を失格とする。また、Setの合図後の「ピク付き」により、他の競技者の妨害をし、不正スタートを生じさせた場合も警告を与える。
- (6) 3000m以上のトラック種目において、1組20名を超える場合はグループスタートを行う。
- (7) 一般男子1000m及び2000mの決勝は2組で行い、A決勝は1位～8位、B決勝は9位～16位を決定する。
ジュニア種目の決勝は、タイムレース決勝とする。
- (8) トラック競技において、セパレートレーンを使用する種目については、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (9) 4×100mリレー第2・3・4走者は、競技者係から渡された目印用テープのみを置くことができる。レース終了後は第1・2・3走者が自チームのテープを取り除くこと。（TR24.4）
- (10) 4×400mリレーの第3・4走者は、競技役員の指示に従い前走者が200mスタート地点を通過した順位で内側から並び待機する。その後に順位に変動があっても並び順を変えてはならない。なお、バトンを受け渡した後の走者は、後続の他チームの走路を妨害しないように留意すること。
- (11) リレーに出場するチームは同一デザインのユニホームで出場すること。形状の違うものについてはカラー等デザイン等が酷似している場合は認めるものとする。
- (12) スパイクシューズのピン使用は、トラック競技9mm以下、フィールド競技12mm以下とする。（TR5.2）
- (13) 長距離・競歩競技については、気象の状況により給水を設ける。
- (14) 競技用の靴底の厚さについては、以下の表に適さなければならない。規格外シューズを使用して競技に出場した場合は、失格として取り扱う。靴底厚確認については、WA承認の靴を使用すること。

【TR5.13.3 表】

競 技	靴底の最大厚さ (本規定 10.6 による)	その他の要件／注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mmスパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mmスパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点）

- (15) 走高跳・棒高跳の練習および競技中のバーの上げ方は、下記のとおりとする。

一般男子走高跳	1m80・2m00（練習）	1m85 - 1m90 - 1m95 - 2m00（以降3 cm）
一般女子走高跳	1m50・1m70（練習）	1m55 - 1m60 - 1m65（以降3 cm）
一般男子棒高跳	4m00・4m50・5m00（練習）	4m20 - 4m40 - 4m60 - 4m70 - 4m80 - 4m90 - 5m00 （以降5 cm）
一般女子棒高跳	2m60・3m10・3m60（練習）	2m80 - 3m00 - 3m20 - 3m30 - 3m40 - 3m50 - 3m60 （以降5 cm）
ジュニア男子走高跳	1m70・1m85（練習）	1m75 - 1m80 - 1m85 - 1m90 - 1m95（以降3 cm）
ジュニア女子走高跳	1m40・1m55（練習）	1m45 - 1m50 - 1m55 - 1m60（以降3 cm）

- ① 荒天、その他特別の状況が生じた場合、審判長の判断により変更することがある。
 ② 優勝決定のためのバーの上げ下げは、走高跳2 cm、棒高跳5 cmとする。

- (16) 混成競技走高跳、棒高跳の練習及び競技中のバーの上げ方は、次のとおりとする。

男子十種走高跳	1m50・1m80（練習）	1m55 - 1m58 - 1m61 - 1m64 - 1m67 - 1m70（一律3 cm）
男子十種棒高跳	2m50・3m00・3m10（練習）	2m60 - 2m70 - 2m80 - 2m90 - 3m00（一律10 cm）
女子七種走高跳	1m25・1m45（練習）	1m30 - 1m33 - 1m36 - 1m39 - 1m42 - 1m45（一律3 cm）

- (17) フィールド競技の公式練習は、役員の指示によって行う。出場人数等の関係で1回のみになる場合がある。
 (18) フィールド競技で助走路に使用できるマーカーは、主催者が用意したマーカーを2つまで置くことができる。ただし、砲丸投、円盤投、ハンマー投のマーカーは1つとする。走高跳は、各自でマーカー（粘着テープ、2カ以内）を助走路内に使用することができる。使用したマーカーは競技終了後、役員の指示があった後、各自で片付けること。
 (19) 三段跳の踏切板は、男子13m00、女子10m00に設置する。
 (20) 投てき競技に出場する競技者は、練習場も含めて役員の指示に従い、事故防止に十分注意すること。
 (21) フィールド競技ジュニア種目の測定距離について、以下の記録に満たない記録は計測せず無効試技とする。

男子走幅跳	6 m 2 0	男子砲丸投	1 1 m 0 0
男子円盤投	3 3 m 0 0	男子やり投	4 5 m 0 0
女子砲丸投	9 m 0 0	女子円盤投	2 8 m 0 0

5. 競技の抽選及び番組編成について

- (1) トラック種目における準決勝・決勝の組み分け及びレーン順は、番組編成員によって行う。
 (2) タイムによる次のラウンドに進む競技者の決定について、最終枠に同記録があるときの処置は、0.001 秒単位の時間を判定して競技者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。
 (3) 大会を欠場する場合は、大会2日前までにチーム監督（コーチ）を通じて欠場届を提出すること。欠場者によっては種目の番組を再編成する可能性もある。

6. 結果発表と抗議について

- (1) 結果は大型スクリーン及びアナウンスのほかに、ホームページ上で速報を行う。
 (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則 TR8 に定められている時間内に（同一日に次ラウンドが行われる場合には結果発表後15分以内、それ以外は30分以内）に競技者自身または代理人が、TICを通じて審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金（1万円）を添え、担当総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。

7. 競技用具について

- (1) 本競技会で使用する用器具は、棒高跳ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。
- (2) 投てき用具の持ち込みを希望する場合は、競技開始100分前から70分までにTICに申し出て指示を受け検査を受けること。なお、検査に合格した際は、一括借り上げとし、他の競技者も共有できるものとする。またその際、破損等があった場合も、主催者は一切の責任を負わない。受け付けた投てき用具については、「預かり証」を発行し、競技終了後にTICで「預かり証」を確認の上返却する。
※混成競技の選手で、個人のやりを使用する場合は、混成競技係に事前に連絡し、前の競技終了後やりを預け、検査を行ってもらうこと。

8. 練習について

- (1) ウォーミングアップ及び練習は、サブトラックで行うこと。(雨天練習場も使用可能)
- (2) 練習会場及び練習時間については別表を参照のこと。
- (3) 練習場の使用については、役員（練習会場係）の指示に従い安全に留意すること。
- (4) 本競技場内における競技前の練習については、すべて競技役員の指示に従って行うこと。
- (5) 投てきの練習について
 - ① 投てきの練習については、役員の指示に従うこと。
 - ② 練習は事故防止のため、監督・コーチ等が必ず付き添うこと。
 - ③ 競技前の公式練習は、出場人数等の関係で1回のみとする場合がある。

9. 表彰について

- (1) すべての競技者は第1ゲート付近退場口から退場すること。また、各種目の表彰は第3位までとする。第3位までの入賞者は決勝終了後、審判員の指示に従って表彰者控室で待機すること。
- (2) 優秀選手賞については、昨年度日本陸連100傑を参考に、男子1名、女子1名を決定し、表彰する。

10. 個人情報の取り扱いに関して

- (1) 本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外には使用しない。
- (2) 本大会が認めた報道機関により撮影された写真や動画が、新聞・雑誌・大会報告書・ホームページ等で公開されることがある。
- (3) 本大会が認めた報道機関が撮影した映像が、中継・録画放送されることがある。

11. その他

- (1) 各競技場等の開門時間は午前7時00分、閉門時間は競技終了後30分後を目安とする。
- (2) フィールド競技の助言については、コーチングエリアで行う。
- (3) 試技の確認でビデオを見せる場合は、コーチングエリアからのみ認める。
- (4) 棒高跳用ポールの返送は、8月24日（日）午前中までにTICに指定の送り状を張り付けて持参すること。
- (5) 弁当の引き渡し及び回収は（株）TEAMの指示により行う。
- (6) ゴミ類は、各自で責任をもって持ち帰ること。
- (7) 写真・動画の撮影に関しては、本プログラム「競技会における撮影制限について」の注意事項に従うこと。